

ニュースレター News Letter

市
SAPOSEN
ふくしま地域活動団体サポートセンター
2018

CONTENTS

- P2 Pick up NPO
・特定非営利活動法人 奥会津まちづくり支援機構
・特定非営利活動法人 馬事振興会
- P4 チャレンジインターンシップ活動報告会・閉講式
- P5 活用していますか？“SNS”
- P6 講座開催報告
- P7 「子ども食堂」NPOも積極的に関わっています！
- P8 助成金情報



見る人にとってわかりやすい事業報告書等の作成に向けて

今年も残すところあとわずか。そろそろ事業報告書等の作成が頭を過る季節です。サポセンでは、来年1月に二本松市といわき市で「事業報告書等と会計講座」を開催します。

ここでは前段として事業報告書等の中の「活動計算書」を採り上げます。

Q

2010年に発表されたNPO法人会計基準により「収支計算書」から「活動計算書」へ変えていくこととなりました。

「収支計算書」では計上していた長期借入金や固定資産の支出入を「活動計算書」では計上しないようですが、借入金を分割返済した時や固定資産を減価償却した場合、「活動計算書」と「貸借対照表」ではどのように処理するのですか？

A

借入金に関しては返済後の残額を、減価償却した際は減価償却後の金額を貸借対照表に計上し、減価償却費を活動計算書に計上します。

※固定資産や借入金の“動き”は「財務諸表の注記」に記載されることとなります。



ポイント



「活動計算書」はあくまでも「1年間の活動の結果どれだけ正味の財産が増減したのか」を表すものです。また、お金の出入りに焦点をあてていた「収支計算書」に対し、「活動計算書」は経済的な事実を重要視します。例えば、サービスを提供した（経済的な事実が生じた）時とお金が支払われるタイミングは必ずしも一致しません。NPO法人会計基準では、収益と費用を「経済的な事実が生じた」時点で把握するとしていますので、その時点で会計処理を行います。

このような「活動計算書」をよく目にします！

計算書の名前のみを変更して（活動計算書）、中身をそのまま（収支計算書）としているものも多く見られます。財産目録・貸借対照表・活動計算書では、三表で一致する部分が出てきます。活動計算書の中身が収支計算書のままの場合、三表が一致せず閲覧する人にとってわかりにくいものとなってしまいます。

事業報告書や財務諸表は、団体やその活動を表す大事な書類です。日々、社会課題解決のため尽力しているその成果を正しく理解してもらうため、見る人にとってわかりやすい書類の作成を心掛けましょう。

他の事例紹介や詳細な説明は1月の講座で行います。ぜひともご参加ください！

「活動計算書」とありますが、
中身は「収支計算書」です

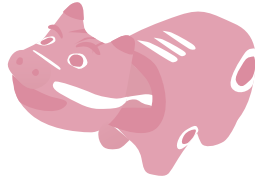
平成30年度 活動計算書	
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで 特定非営利活動法人〇〇〇 (単位:円)	
科目	金額
(経常収支の部)	
I 経常収入の部	
1. 会費収入	200,000
2. 事業収入	1,400,000
3. 寄付金収入	100,000
4. その他収入	10,000
経常収入合計	1,710,000
II 経常支出の部	
1. 事業費	
□□ 事業	800,000
■ 事業	500,000
...	



特定非営利活動法人

奥会津まちづくり支援機構

柳津町



「もんてん」から会津地域を盛り上げる!!

特定非営利活動法人奥会津まちづくり支援機構は昨年設立されたばかりのNPO法人です。理事長をはじめ理事の方々が柳津町を中心に会津地域を広く盛り上げることに力を入れており、それを団体のミッションとして活動しています。

設立2年目の今年度は7月、9月、10月、11月と年4回、柳津町の象徴ともいえる圓藏寺の近くのやないづ門前町を歩行者天国にして、やないづ門前町歩行者天国略して「もんてん」のイベントを行いました。もんてんは季節に応じて内容盛りだくさんで、子どもから大人まで楽しめるよう、時間も内容も毎回異なるものを企画しました。9月30日のイベントでは、その昔同日に夕刻から老若男女がお堂に籠もり、念仏太鼓や仮装盆踊りを見ながら夜明けまで菩薩と共に過ごした圓藏寺での福德円満、無病息災を祈願する行事になり、時間は22時までとはなったものの「もんてん 秋の宴&おこもり」としてイベントを開催しました。今後は、更なるもんてんイベントの充実を目指します。

イベントに集客をする際には情報発信がとても重要になってきます。現在は、チラシを町内や隣町の道の駅などに配布することでイベントの広報を行っています。今後は、団体としてウェブサイトやFacebookなどのSNSでの発信を



歩行者天国の様子

充実させていく予定です。

団体として町内外の方々を巻き込む仕組みを考え、つながりを作りはじめています。

地元の方々や地域が元気になるまちづくりをしっかりと行いながら、柳津町や会津地域の活性化に取り組んでいます。



たくさんの子もたちが参加しました!!

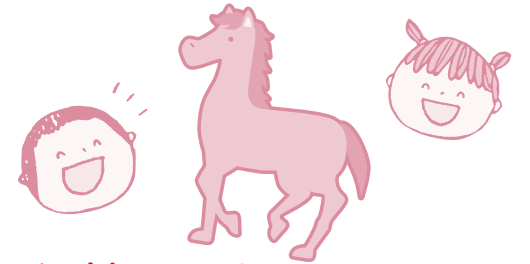


「もんてん」のチラシ

特定非営利活動法人

馬事振興会

古殿町



馬とふれあうことで人々の笑顔と地域の伝統をつなぐ!!



馬との力くらべ。
みんなで綱引き、負けないぞ!!



未来の古殿町の担い手たち

特定非営利活動法人馬事振興会は古殿町で活動する唯一のNPO法人です。平成21年に地元の有志を中心に立ち上がり、今年設立10年目となりました。現在、古殿町を中心に15名の会員で構成しています。古殿町は「流鏝馬神事」が有名ですが、流鏝馬をするためには馬を知ることが重要です。

以前は地域としてもかかわりあいが多くあった馬も、身近に感じる機会も少なくなってきたのが現状です。そのため団体として「馬とふれあい、馬を知る」活動を多く取り入れています。

馬は「田畑を耕すこと」「ものを運ぶこと」に大きな役割を果たしていました。現在では見ることも少なくなった田おこしでは親子の馬が活躍し、参加した地元の小学生は貴重な時間を過ごしました。

また、馬の本来持っている力を体感してもらおうと企画した馬との力くらべ(綱引き)では子どもも大人も真剣勝負を行い、笑顔と歓声が絶えない時間となりました。

「子どもたちの笑顔を見ると幸せを感じ、それが団体の活動の原動力になっていきます。」と鈴木理事長は話されています。そのため、それらのイベントを開催する際の安全面での努力も怠りません。馬とかかわる方々が危険にさ

らされることがないように、馬を取り扱うための有資格者をおき、団体としてしっかりと活動やイベントに取り組んでいます。NPO法人同士の横の繋がりも意識しながら活動の発展を目指し、今年4月には隣の石川町の団体と協定を結び、互いに協力しあいながら地域活性化に取り組むことを決めました。これからも子どもたちに馬との共存を丁寧に伝えることで、古殿町の伝統文化を継承していきます。



古殿杉を使った協定書

NPO×若者＝復興!!

平成30年度NPO強化による復興創生事業
「チャレンジインターンシップ事業」

活動報告会・閉講式開催

一人ひとりの想いが 未来の福島を創る!

10月28日(日)、ビッグパレットふくしまにおいてチャレンジインターンシップ活動報告会・閉講式を開催しました。今年度は、47名の高校生・大学生・専門学生が、県内で復興支援活動をしているNPO法人で、夏休みの一週間程度インターン活動に取り組みました。

今年度の活動報告会は、4回目の開催で初めて、グループに分かれて報告する形式で行いました。

共催の Coca-Cola ボトルズジャパン株式会社より記念品贈呈



未来の福島を
創るぞ、オーっ!



グループ代表者による
ステージでの発表

4グループに分かれて
お互いの活動を報告



福島県文化振興課長
より修了証書授与

インターン生より①どんな活動をしたか②学んだこと・得たもの・気づいたこと③活動で得たものを今後どのように活かすかの3点について発表がありました。発表後、受入れNPO法人の方からコメントをいただき、さらにグループ内から質問や感想を話してもらうことで、より深く活動について振り返る時間となりました。

グループ発表後は、各グループから代表者を選出して、ステージで発表していただきました。夏の活動で様々なことを経験し、そして各グループの代表であるという想いを持ったみなさんは、自信を持って堂々と発表していました。7月の開講式からひと回り成長した姿に出会うことができました。

発表では、「地元地域の発展に貢献していきたい」「自分が本当にやりたい仕事をするのが大切だと気づいた」「将来の視野に福祉の仕事も入れていきたい」などの言葉が聞かれ、インターン活動が自分の将来や生き方を見つめるきっかけとなったことが伝わってきました。この活動で抱いた一人ひとりの想いがそれぞれの場所で花開くことが、福島の未来も輝くものにしていくと感じた報告会でした。

チャレンジインターンシップ
ウェブサイト活動の
ようすを掲載中です。
<https://f-intern.f-saposen.jp/>



活動報告会のオープニングで
流した映像はこちらから
http://bit.ly/cis2018_openingmovie

活用していますか?
“SNS”



今年度のチャレンジインターンシップ(CIS)では、主に学生との連絡手段として“LINE@”※を採り入れました。これまでは電話やメールで連絡を取っていましたが、LINE@を使うことでCIS担当スタッフと学生との連絡がよりスムーズになり、連絡調整にかかる労力も大幅に減少しました。

SNSと聞くと、まだまだ気後れしてしまう方も多いと思いますが、それぞれの特性を活かし上手に活用することで、組織にとって重要な情報発信の可能性が格段に広がります!

今回は、ウェブサイト・Facebook・Twitter・Instagramをフル活用している団体や、サポセン開催「SNS講座」受講後に講座での学びを活かしSNS力を向上させている団体を紹介します。

※LINE@では大勢の人に一齐配信が可能、かつ、受信者からの返信が送信者にもみ送られるので、LINEのグループ機能とは違い個人情報が守られます。

キャリア・デザイナーズさんでは、ウェブサイト・Facebook・Twitter・Instagramと情報発信機能をフル活用されています。それぞれどのように使い分けているのでしょうか?



認定NPO法人キャリア・デザイナーズ

■ウェブサイト ウェブサイトについては、ネットによる広報活動の基盤的な位置づけをしています。ベースとなる情報(理事長あいさつ、団体概要、実施事業、直近の事業報告や決算報告、寄付のお願い等)を見やすく網羅的に掲載することで、社会の皆様へ団体についてご理解いただけるよう意識しています。

■SNS SNS(Facebook、Instagram等)では、スタッフが担担し、日々の活動風景など、より身近でリアルタイム性を意識した情報をお知らせしています。SNSは「いいね!」や「シェア」といった、記事を見た方からのダイレクトなリアクションや拡散力があるので、団体への共感や信頼を得るにはどのような広報をすれば良いか参考にしています。

☆Instagram導入のきっかけはCISインターンの提案?

昨年、大学生インターンを受け入れた際、「利用者を増やすための方策についての提案」という課題をやっていただきました。その時の提案が、Instagramを活用した広報活動でした。若者支援をしている団体として多くの若者にさらに情報が届くよう導入を決めました。

「SNS講座」受講後、どのように実践していますか?



NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会

現在は地域情報ははじめ、季節の話題や協会の取り組みなど、会員それぞれが管理者となり発信することを心がけています。講座では実際のPC画面での説明もあり、たくさんのヒントが得られたので「ポイントを押さえた効果的な発信」へとつながりました。

NPO法人 トマトハウス

Facebookを新規立ち上げるにあたりSNS講座に参加しました。講座ではFacebookのマナー等を学ぶことができ、また、実際のPC画面での説明でわかりやすく、現在は講座での学びを活かし管理運営しています。Facebook・Twitterともに開設して間もないのですが、今後の反応が楽しみです。



講座開催 報 告

今年度、サポセンが開催した講座の中で、例年とは趣向を変えた3つの講座を紹介！
各講座で説明・紹介された重要なポイントを中心に報告します。

助成金活用セミナー＆説明会

- 申請書は、「熱い」想いを「冷静」な文章で
 - 助成元が成し遂げたい社会的課題、その課題解決のためNPO団体の強みを活かしてどのような形で解決できるのか、そのためにはまず「助成元の願い・思い」を汲み取ること
- 等、申請時のポイントが盛りだくさんでした。

日 時：2018年9月22日(土) 13:30 ～ 16:30

場 所：福島市市民活動サポートセンター 参加人数：20名

発表者：①公益財団法人キリン福祉財団／特定非営利活動法人あだたら青い空

②公益財団法人トヨタ財団／NPO法人ホールアース研究所

③社会福祉法人福島県共同募金会／特定非営利活動法人子育て支援コミュニティチママン

コーディネーター：渡辺 元 氏（公益財団法人助成財団センター）



助成元と助成を受けた団体がそれぞれの立場から報告・説明しました

NPOチームづくり講座

カードゲームを通して「無意識に失敗を恐れている」「考えても答えの出ないことをつつい考えてしまっている」ことに気づき、「困りごとを発信する」「考えてもわからないことは試してみる」等、チームづくりで重要なことを学びました。

日 時：2018年10月3日(水) 13:30 ～ 15:30

場 所：会津稽古堂 研修室2 参加人数：33名

講 師：鈴木 利和 氏（組織コンサルタント／合資会社ベルノート無限責任社員）



カードゲームで楽しみながらも気づきの多いものとなりました

NPO休眠預金を活用するための社会的インパクト評価講座

「受益者の笑顔」は、どのように成果として評価しますか？

今年から施行された休眠預金等活用法ですが、同法の「成果に係る評価の実施」部分では「客観性」が求められます。そこで重要となってくるのが事業計画段階で作成する「ロジックモデル」です。

今講座では、参加者が実際にロジックモデル作成に挑戦しました。事業目標という最終目的から遡って考える方法や、日々忙しつい近視眼的になりがちな見方を長期的な視点に転換することなど、ロジックモデルを作成する際のコツを学びました。

日 時：2018年10月16日(火) 13:30 ～ 15:30

場 所：郡山ミュージカルがくと館 大ホール 参加人数：15名

講 師：山崎 庸貴 氏（一般財団法人ふくしま百年基金 代表理事、日本ファン・ドレイジング協会 認定ファンドレイザー／東北チャプター共同代表）



山崎氏に教わりながらロジックモデルを完成させました

1面で紹介しました「事業報告書等と会計講座」の他、今後開催する講座は12月7日(金)の「地域づくり団体の方のためのSNS講座」(田村市)です。サポセンでは、時代のニーズや皆さまからの要望に応え、今後の講座も考案していきます！皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

「子ども食堂」 NPOも積極的に関わっています！



全国で急速に拡大し、2300カ所にものぼるといわれる「子ども食堂」。

福島県内では、昨年8月に「ふくしまこども食堂ネットワーク」が発足し、現在は子ども食堂を実施する12団体で構成、新規子ども食堂の開設や持続的な運営に向けてアドバイス等を行っています。

「子ども食堂」に関する記事や報道はよく目にしますが「子ども食堂＝貧困家庭の子どもが行く場所」とは限りません。誰でも訪れることができるオープン型の子ども食堂は、全ての子どもが無料もしくは少額で利用できます。また、学生からお年寄りまで様々な年齢層のボランティアが集うので「地域交流の場」としての側面も持ち合わせています。

「子ども食堂」の運営・実施主体は多種多様ですが、その中でもNPOが大きく関わる今話題の「子ども食堂」。「ふくしまこども食堂ネットワーク」代表の江川和弥氏（特定非営利活動法人寺子屋方丈舎理事長）に「子ども食堂」の役割や継続する上での課題等をお話いただきました。

こどもは、地域の未来

私たち、ふくしまこども食堂ネットワーク（加盟12団体2018年10月末時点）は、「こども食堂」をつうじて、地域に交流の場をつくり、学校外のこどもの居場所、学び場を運営する活動を行っています。こどもたちには、安心と安全、楽しむ心が必要です。

学校と家庭以外の場を持つことで、こどもたちは、自分の生きる選択肢を増やしています。少しの失敗や悲しい出来事も、いろんな場で意見をもらうことが、生きる豊かさにつながります。

私たちは、「こども食堂」を運営して、こどもから希望と笑顔とやりがいをもたらしています。まだまだ、民間主導の事業ですので、持続可能な事業にしていく必要があります。

「ふくしまっこ つながるこども食堂応援プロジェクト」（主催：ふくしまこども食堂ネットワーク、地域創造基金さなぶり、福島民友新聞社）では、持続可能な事業にするための寄付を現在集めています。みなさんのご協力、ご支援を是非よせてください。

ふくしまこども食堂ネットワーク https://peraichi.com/landing_pages/view/gj5qo

フォーラム

「子ども食堂で地域は変わる ～人と地域を元気にするしくみ～」に 参加してきました！

10月8日(月)に郡山商工会議所で開催されたフォーラムでは、社会活動家で法政大学教授の湯浅誠氏が講演しました。湯浅氏は、貧困等本当に困っている赤信号の子どもたちとその予備軍である黄信号の子どもたちの存在に触れ、黄信号の子どもたちがオープン型の子ども食堂に集い様々な人々と触れ合うことで赤信号に変わるのを食い止めることができると話しました。



対談する江川氏(左)と湯浅氏(右)

ふくしまこども食堂ネットワーク加盟団体(一部) こども食堂MAP

- ① コープいずみ☆こども食堂(福島市) 運営: コープふくしま
- ② よしいだキッチン(福島市) 運営: 特定非営利活動法人ビーンズふくしま
- ③ ハラクチャー(二本松市) 運営: NPO法人あだたら青い空
- ④ 太田福祉記念会の子ども朝ごはん(郡山市) 運営: 社会福祉法人太田福祉記念会
- ⑤ ジョイクラわくわくカフェ(郡山市) 運営: ぼんじゅいの会
- ⑥ ドリームキッズパーティー(郡山市) 運営: 一般社団法人グレースコミュニティサービス
- ⑦ みんなの食堂わりら(須賀川市) 運営: kokoyori
- ⑧ らふみーる食堂(笑顔&食)(白河市) 運営: 一般社団法人あんだんて
- ⑨ 「こども食堂」相生(会津若松市) 運営: 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎
- ⑩ 「こども食堂」城西(会津若松市) 運営: 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎
- ⑪ 「こども食堂」門田(会津若松市) 運営: 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎
- ⑫ つなぐ舎 子ども朝食堂(会津若松市) 運営: つなぐ舎



(2018.9.30現在)

助成金情報

チャレンジして
みよう!

NPO関連の助成金情報については
当センターのウェブサイトをご覧ください。
【URL】 <https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇学術・文化・芸術・スポーツ、子どもの健全育成、まちづくりの推進

文化・スポーツ活動助成【支援元／公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団】

- 対象事業／福島県内団体で地域における文化・スポーツの向上発展に寄与すると認められる講演活動・成果発表事業および各種競技会・講習会の実施。
- 申込期間／2018年11月1日(木)～12月30日(日) ●上限金額／1件あたり10万円あるいは20万円
- 参考URL／<https://www.tohobankkyoikubunka.jp/>

◇保健・医療又は福祉、まちづくりの推進

第8回杉浦地域医療振興賞【支援元／公益財団法人 杉浦記念財団】

- 対象事業／地域医療を振興し、国民の健康と福祉の向上に優れた成果をおさめ、住み慣れた地域で安心して、その人らしく住み続けることを支援する活動。
- 申込期間／2018年10月1日(月)～12月31日(月) ●上限金額／正賞として記念品を授与するとともに、副賞として200万円を贈呈
- 参考URL／http://sugi-zaidan.jp/assist_decoration/boshuyoko.html

◇学術・文化・芸術・スポーツ

2019年度スポーツ普及奨励助成【支援元／公益財団法人 スポーツ安全協会】

- 対象事業／法人格を有するスポーツ・レクリエーション、生涯スポーツ関係団体が主催する、全国・ブロック単位で行われるスポーツ・レクリエーション大会等。
- 申込締切／2019年1月18日(金) ●上限金額／1件あたり500万円(事業により異なる)
- 参考URL／<https://www.sportsanzen.org/index/Info/info-0928.html>

◇環境保全

アウトドア環境保護基金(後期)【支援元／コンサベーション・アライアンス・ジャパン】

- 対象事業／自然が残された特定の土地や水域を、野生生物の生息地、またはアウトドア・レクリエーションの機会を確保するために保全することを目的としているプロジェクト。
- 申込期間／2018年8月16日(木)～2019年2月15日(金) ●上限金額／1件あたり50万円
- 参考URL／<http://ca-j.org/grants.html#2>

◇学術・文化・芸術・スポーツ

2019年度助成金【支援元／公益財団法人 ヨネックススポーツ振興財団】

- 対象事業／スポーツ団体の行う青少年スポーツの振興に関する事業。
- 申込締切／前期：2018年12月20日(木)、後期：2019年6月20日(木) ●上限金額／1件あたり100万円
- 参考URL／<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

◇保健・医療又は福祉、災害救援

障害者市民防災活動助成【支援元／特定非営利活動法人 ゆめ風基金】

- 対象事業／大規模な自然災害が起きたときに、少しでも障害者市民が受ける被害を小さくするための各地で取り組まれる障害者市民防災・減災活動。
- 申込期間／随時(ただし申請は事業実施3ヵ月以上前に) ●上限金額／1件あたり10万円
- 参考URL／<https://yumekazek.com/fund/fund.html>

◇災害救援、子どもの健全育成

FunD(ファンド) 福島の子ども支援プログラム【支援元／株式会社ラッシュジャパン(LUSH)】

- 対象事業／福島第一原発事故により影響を受けた子どもたちに、「楽しみ」を届ける活動。
- 申込期間／随時(応募締め切りは3ヵ月に1回：3月末、6月末、9月末、12月末) ●上限金額／1件あたり200万円
- 参考URL／<https://jn.lush.com/article/fund-guidelines>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体／920 団体

◆特例認定 NPO 法人団体／1 団体

◆認定 NPO 法人団体／17 団体

平成 30 年 10 月 31 日現在

編集後記

マッチング事業を通して組織基盤強化の重要性を痛感。【後藤】
寒さがこたえる今日この頃です。皆様ご自愛ください。【野地】
イルミネーションの季節。今年は見に行きたい!【櫻井】
取材にご協力下さった皆様、ありがとうございました。【青柳】
「備えあれば憂いなし」天変地異も乗り切りましょう。【渡部】
風邪の流行る時期なので皆様お気を付けください。【穴戸】
サンタさん!私はここです!【山内】